

# 墓場尻川 2016/10/30

メンバー：落合（CL・記録），飯野（S L），細野，平川，荒井

天候：曇り時々晴れ

基点 8:30 三俣 11:15 雉滝 12:50（昼食）遡行終了 14:50 基点 17:30

沢登りシーズンもいよいよ終盤、シーズンの〆は上信国境の墓場尻川へ行ってきた。

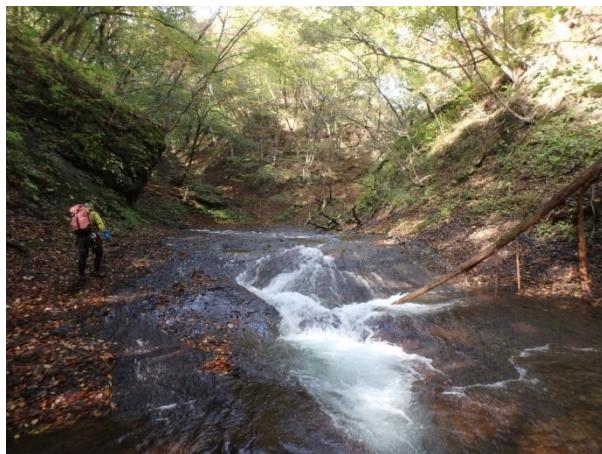
西上州ということもあり前夜は例のごとく登利平パーティー、22時頃から飲み始め深夜遅くに細野バーが開店し気がつけば2時頃まで飲んでいた。（荒井さんは付き合いきれず早々に就寝）

案の定、目覚めの悪い朝。このままズッと寝ていられたらどれだけ至福の時だろうと思いながら、シーズンの〆でそれは出来ないので渋々出発。。

墓場尻川は以前5月に一度遡行経験（落合、飯野、細野）があったが、西上州のベスト・シーズンは秋ということでまた再訪するキッカケとなった。

一度遡行しているハズなのに、歩いているとこんなとこあったっけ？的な部分が多く、前回とは違った印象があり地形図を改めて見直してみるとこの山域にしては大きい沢であることを再確認。

二日前にしっかり雨が降っていたので、水量も多く季節も異なるので違う印象を受けるのも当然かもしれない。ナメ床はどこまでも癒し系の渓相で相変わらず素晴らしいが、時期やメンバーを変えて再訪するのも違った意味で新鮮だ。



癒し渓の中流部



ヒトマタギは水量が多くて大マタギ・トラバースで本気トライ（左）

右岸から巻けるが、飯野・落合はチャレンジ、落ちるとダチョウ俱楽部のコントになりかねない。。

前回の晩春（右）と比べると一目瞭然だが、晩秋は濡れたくないでの気持ちが入る。

道中みんなで登利平のソースカツ弁当を食べたが、ボリューミーでお腹一杯になり後半失速する。

時間差攻撃で二日酔いにやられる人、満身創痍の人、前夜遅くまで飲んでいたツケが出る。。

中俣下降のつもりで来たが時間も押しているので旧中山道経由で基点に戻る。

前回もそうだったが、尾根下降に使った 909 ピークの特定が曖昧。前回降りた尾根よりひとつ先の尾根から下降してみようとしたが降りてすぐに行く手を阻まれて結局前回と同じ尾根を下降することにした。途中クライムダウンで降りるところがあるが、今回は地盤も緩く滑りやすいので懸垂下降。

辺りは薄暗くなりはじめそろそろヘッデンをつける時間になってしまったが、みんなで下降している途中沢の方から獰猛な野獣の声が何度も聞こえ、「シーズンの〆の最後の最後で熊かよ～」と思いながら爆竹を鳴らし何とか事無きを得た。沢登りのような道なき道を進む場合は熊鈴やホイッスルではあまり効果を感じないので、やはり爆竹を上蓋に忍ばせておくといざという時は安心である。

尾根は途中で複雑になり今回も最後は沢を下ったが、初見で沢をヘッデン下山になつたらストレスを感じるが前回と同じルートを取ったので特に問題なく下ることが出来た。最後は沢の中に温泉が湧いている小さな小屋があり車道に出たらすっかり真っ暗になっていた。

シーズンの〆でヘッデン下山、最後は危うく熊に遭遇するところだったが、下山後は関所食堂の予定が時間切れとなってしまいクラシック・ルートを完結出来なかつたが、今シーズンは実に多くの山行を熟すことが出来たので来年もまた楽しみである。